

## GIS技術資格認定 職務一覧(2009/03/11)

1. GIS 担当役員 .....	2
2. GIS マネージャー .....	3
3. GIS コンサルタント .....	5
4. GIS スペシャリスト.....	7
5. GIS データアナリスト.....	9
6. GIS プログラマー .....	10
7. GIS 技師.....	12
8. GIS ユーザー .....	13
9. GIS オーガナイザー.....	14
10. GIS リサーチャー.....	14
参考文献.....	15

## 1. GIS 担当役員

---

### GIS 担当役員

GIS 担当役員は、組織における GIS 事業を司る部門の長である。この役職は、GIS に関する部局や GIS プロジェクトに配属された人員を統括する。技師やアナリスト、プログラマー、マネージャーなど全ての GIS 担当者は GIS 担当役員の監督下にある。GIS 担当役員には、広範囲にわたる GIS や管理に関する経験と能力が必要となる。平均的な雇用に際しては、GIS 担当役員には 7 年以上の経験(ソフトウェアアプリケーションやプロジェクト管理を含む)が求められる。

---

## 2. GIS マネージャー

肩書き	GIS マネージャー
<p>GIS マネージャーには技術力だけではなく管理能力も求められ、組織の中で GIS 技術が適正かつ効率よく使われているようにしなければならない。また、GIS マネージャーは組織における空間情報の必要性を把握すると同時に、利用可能なリソースも把握していなければならない。これは、組織の役割や活動に関する実用的な知識が、そこで用いるデータベースやソフトウェアの知識と共に重要であることを意味する。</p> <p>GIS マネージャーは限られた時間と予算内でプロジェクトを完成させるために必要となる技術や能力を持たなければならない。GIS マネージャーは、プロジェクトのゴールや目標を定め、完成期日を設定し、必要となるリソースを手に入れ、部下の仕事の進み具合を管理・評価し、GIS ユーザーの部署や職場での作業と調整を図る。しかしながら、多くの技術分野と同様、有能な GIS マネージャーというのは、予算を管理し、プロジェクトを管理し、そして従事するスタッフを管理する能力を備えなければならない。そして GIS に関する技術的な知識もまた必要とされる。GIS プロジェクトの管理には、細部にわたる配慮が必要であり、かつ鋭い洞察力も備えた人々が求められる。GIS マネージャーは、異なるグループや部局、機関あるいは個人の間での GIS に関する活動の調整を行うよう常に心がけなければならない。</p>	
必要となる背景	
教育	地理学、計画学、コンピューター科学、工学、GIS、地質学又は関連する他の分野での学士以上。
技術	<p>部下、上位管理職、他機関に対する、書面あるいは口頭によるコミュニケーション能力が必要である。</p> <p>また、筆記能力も重要である。広範囲にわたる意見のやり取りや報告が GIS マネージャーに求められるからである。GIS マネージャーは、細部にわたる配慮と、確固たる問題解決能力をもつ必要がある。プロジェクト管理には、慎重さとプロジェクト中に発生する問題の解決能力が求められる。さらに GIS マネージャーは統制を図り、常に個々の作業者が何をしているかを把握しておかなくてはならない。</p> <p>GIS 部局の大きさによって GIS マネージャーが持たなければならない技術的な知識は、専門特化した技術からソフトウェアやアプリケーションの基礎的な知識までさまざまである。数名からなる小さな組織の中では、管理だけではなくプログラミングや分析、そしてデータベース開発などに従事することが必要となる。しかし、大規模な組織では、GIS データアナリストやプログラマーや技師など、技術的作業に従事する人員がいる。GIS マネージャーは全ての GIS の技術的な局面に熟達している必要があると考えられることが多い一方で、技術者というよりも管理者としての立場が求められると考える向きもある。結果として、GIS 部局の多くでは、マネージャーの役職には、経験値の高い GIS</p>

	ユーザーではなく技術に精通した経験者をあてることが多い。
コンピューター技術	GIS ソフトウェアの深い知識と、データベースソフトウェアの習熟が強く推奨される。
関連する実務経験	GIS マネージャーとして雇用される前のある程度の経験を積んでいることが前提なる。平均的には 2~3 年間の直接プロジェクトを管理する実務経験を有する。これには GIS ソフトウェアを学んだり、アプリケーション開発に従事したりする期間は含まない。 管理経験や、部下の監督、そしてプロジェクト調整は GIS 部局で管理職に従事するには必須である。
人員の監督	GIS マネージャーは全ての GIS に関する役職(スペシャリスト、コンサルタント、データアナリスト、ソフトウェアアナリスト・プログラマー、技師)の監督を行う。通常、GIS マネージャーは、ユーザーとなる部局にいるスペシャリストは監督しない。
他者とのかかわりにおける性質	GIS マネージャーは日々部下と交流しなければならない。そして特定の機関や行政組織に対して地理情報のエキスパートとして対応する。GIS マネージャーは、口頭あるいは書面で進捗報告や最新情報を上級職や監督組織に行わなければならない。この役職には、組織における様々なレベルとのコミュニケーションを図るため、広範囲に及ぶコミュニケーション能力が必要となる。

### 3. GIS コンサルタント

肩書き	GIS コンサルタント
<p>GIS コンサルタントは GIS マネージャーと似ているが、管理責任や運営責任は持たない点で異なる。GIS コンサルタントは、他機関や個人あるいは行政機関への支援を行う。相手が GIS のユーザーである、ないに関わらず、地理情報技術の向上や応用に関する支援をする責務をもつ。GIS コンサルタントは、機関のデータベースやソフトウェアに対する豊富で実務的な知識を持たなければならない。なぜなら、GIS コンサルタントは、部局や組織間での打ち合わせを設定するのと同様に、全ての共有データや報告書、地図作成を担うからである。様々な部局あるいは行政機関において GIS 技術への依存度が非常に高まってきており、正しい情報の提供や支援はコンサルタントの責務である。</p>	
必要となる背景	
教育	<p>GIS コンサルタントはコンピューター科学、地理学、工学、計画、GIS、人文地理学又は関連する分野で学士をとることが多い。</p>
技術	<p>多くの組織では、この肩書きをマネージャーからアナリスト、プログラマーに対して使うことがある。GIS コンサルタントという言葉が好まれるのは、広範囲の仕事内容を網羅するからである。しかし管理職という意味を含まず、また、仕事の目的が制限されない。</p> <p>多くの場合、GIS コンサルタントは、GIS マネージャーと同じ責務が与えられるが、マネジメントの責務と付帯的な権限はもたない。GIS マネージャーには、管理経験が求められるのに対し、GIS コンサルタントには、技術的サポートやソフトウェアの提供経験が求められることが多い。他機関や顧客、行政等に対して技術的支援を行うことが GIS コンサルタントの通常業務である。</p> <p>GIS コンサルタントが顧客の訓練を担わなければならない場合もある。また、通常、マネージャーや部局長に割り当てられる作業であるが、GIS コンサルタントは時として管理する側の作業に従事することもある。</p> <p>GIS コンサルタントは、一時に多くのプロジェクトに従事することが多い。プロジェクトごとに意識を切替えることがこの役職には必要である。プロジェクト管理経験や、ニーズ評価そして問題解決の経験が GIS コンサルタントとして求められる。</p>
コンピューター技術	<p>GIS コンサルタントは日常で GIS ソフトウェアを広範にわたり使うことになる。また、GIS コンサルタントは、自動製図ソフトウェアやデータベース管理の実務知識がなければならない。レポート作成やデータベース検索もこの役職での重要な位置を占めるため、GIS コンサルタントは一般的なオフィスソフトウェ</p>

	<p>ア、例えばウィンドウズやエクセル、アクセスなどを熟知していなければならない。最後に、コンピューター言語の知識は必須ではないが強く推奨される。</p>
関連する実務経験	<p>GIS コンサルタントに要求される実務経験は平均 2.5 年である。企業や自治体の規模により、4～5 年が要求される場合もある。</p> <p>GIS の専門職業において GIS ソフトウェアやアプリケーションの基本を習得するには、標準的には約 2 年を要する。</p>
人員の監督	<p>GIS コンサルタントは、一般的には他者の監督を行わない。しかし、大規模な組織の中では、GIS データアナリストやプログラマーそして GIS 技師を監督する場合もある。また技術力が高くない GIS ユーザーや、経験の少ない人々が GIS 技術を使うことを指導することがある。</p>
他者とのかかわりにおける性質	<p>GIS コンサルタントは他の部局や組織と密接にかかわりを持って働くため、模範となるようなコミュニケーション技術が必要である。報告書や通信文書そして会議の議事次第などを作成する能力はこの役職で成功しようとするなら必須である。口頭でのコミュニケーションは難しい概念の説明や、部局間で情報をやり取りするために重要である。</p>

#### 4. GIS スペシャリスト

肩書き	GIS スペシャリスト
<p>GIS スペシャリストは、専門特化され、かつ広範な訓練を GIS 技術（例：データベース管理や通信、リモートセンシングなど）に絞って受けた人であることが多い。一方で、この役職は、特化した専門領域や GIS ユーザー（例：プランナー、エンジニア、行政担当者）に与えられることもある。</p> <p>大規模な公共あるいは民間機関では、特定かつ重要なプロジェクトに集中するためにこの役職を提示することが多い。GIS スペシャリストは、GIS マネージャー（または専門分野に特化した場合には部局マネージャー）の指示に従い、チームの中で GIS ユーザーを指導したり、技術的な支援を行ったりする。この役職が GIS コンサルタントと異なるのは、ほとんどの作業がプロジェクト内のものであり、かつ他の組織や行政機関との協力というよりむしろ特定のプロジェクトの進展に助力する。GIS スペシャリストは、個々のプロジェクトにおけるゴールや制約の範囲で、部局の活動を調整し、プロジェクトを完成させるのを支援する。GIS スペシャリストは、特定の GIS ソフトウェアの知識や、当該部署が求める特定の専門分野や技術により雇用される。例えば、ある部局で輸送に関係する責務が貸された場合、GIS 技術者は、GIS よりもむしろ輸送計画などに特化した背景をもっていたほうが良いかもしれない。</p>	
必要となる背景	
教育	<p>地理学、計画学、コンピューター科学、工学、GIS、地質学又は関連する他の分野での学士。もっと特化した専門や研究分野が求められる場合もあるが、それは組織における特別な職掌による（例：林学や海洋学、環境科学、生物での学士などが適用される）。</p>
技術	<p>GIS スペシャリストという役職は、GIS 技術の成長と様々な GIS アプリケーションの登場により過去 10 年間以上にわたる曖昧な位置づけから、今日の大規模な組織の中での一般的な役職として発展してきた。かつては、アプリケーションを動かすための GIS ソフトウェアやデータに対する知識のみが要求されていたが、現在では GPS やリモートセンシング、伝送技術、インターネット、ワイヤレスネットワークなど様々なものが GIS の一部となってきた。かつては、中心的な GIS チームが、様々なユーザーに対して GIS の分析結果やあるいは製品を提供してきたが、現在ではユーザー自身が GIS に関する知識を身に付け、自分達の組織の中で GIS を開発している。これらに関連する技術やユーザーを教育する能力が必要とされているのである。GIS スペシャリストは、その役割を果たす上で模範となる筆記や口頭でのコミュニケーション能力が求められる。上司に対する進捗報告や最新情報の報告は必須である。個人で活動するのと同様、チームの中で働く能力も必要である。</p>
コンピューター技術	<p>GIS スペシャリストは、GIS 技術を背景として持つ。データベース管理ソフトウェアの経験が推奨される。また、GIS スペシャリストは、いくつかのプログラム言</p>

	<p>語に精通している必要がある。通常、ソフトウェアアプリケーションに対する一般的な知識が要求される。</p>
関連する実務経験	<p>通常、GIS スペシャリストは、最低でも2年から3年のGIS に関する経験が必要である。当然であるが、GIS ソフトウェアに対する基本的な知識が求められる。時として、プロジェクトを管理することも求められる。さらに、GIS スペシャリストには、幅広い背景と様々なレベルの経験が求められることが多い。</p>
人員の監督	<p>GIS スペシャリストは、技師やデータ分析者あるいはプログラマーを監督する機会がある。GIS スペシャリストは、特定の目的を達するために努力する一方、GIS マネージャーのもとでチームリーダーとしての機能も果たさなければならない。</p>
他者とのかかわりにおける性質	<p>GIS プロジェクトにおいては、プログラマーやデータアナリスト、技師、そして他の部局メンバーが協力することが多い。GIS スペシャリストは彼らとともに働き、時には様々な規模のチームの中で実質上リーダーとなることもある。コミュニケーション、リーダーシップ、意見に耳を傾けること、その他チーム活動のための様々な能力が必要である。同時に様々な作業あるいはプロジェクトを進める能力も重要である。GIS スペシャリストは、複数の作業を複数の人員あるいはチームの中で調整しなければならない。これらの要求に対して責任を果たし、組織を維持することが必要である。</p>

## 5. GIS データアナリスト

肩書き	GIS データアナリスト
<p>GIS データアナリストは、情報源からデータを収集あるいは受け取り、特定のデータベースに転送する。そして、作成した情報に基づき、意思決定を行ったり、報告書を作成したりする。プログラマーは、データを加工するための手段を作るが、データの意味を理解したり、現実世界の状況に適用させたりするのは、アナリストである。GIS データアナリストは、データの品質を保証するために品質管理法を適用しつつデータベースの設計や、変更及び調整を加える。GIS データアナリストは、ユーザーのシステムやプロジェクトに対するリクエストを形にし、それらの要望を GIS ソフトウェアや特定のアプリケーションの調達や開発に使用する製品仕様書に仕立てる。GIS データアナリストはまた、ユーザーやその他の機関に対して、技術的なサポートやカスタマーサポートを行う。</p>	
必要となる背景	
教育	<p>地理学、計画学、コンピューター科学、工学、GIS、地質学又は関連する他の分野での学士。多くの場合、同様の分野における専門学校又は短期大学での修了も認められる。</p>
技術	<p>GIS データアナリストは、様々なコンピューターアプリケーションに堪能である必要があるが、特に、データベース管理システムの技術は必須である。GIS データアナリストは、空間データに精通していなければならない。また、GIS データアナリストは、地図作製法や地図製作の経験を有するべきである。空間解析と視覚化がこの役職の主要な責務である。</p>
コンピューター技術	<p>コンピューター技術は、この役職では重要な技術である。GIS ソフトウェアについての強力な知識が必要である。プログラム言語を理解する努力も重要である。データベース管理ソフトウェアで使う技術が要求される。</p>
関連する実務経験	<p>多くの場合、GIS データアナリストとして雇用される前にある程度の経験をつむことが必要となる。2～3 年間の実務経験を有することが一般的である。卒業後すぐに GIS データアナリストとして雇用されることはめったにない。なぜなら雇用者の多くは、包括的なデータの解析を行う前に、GIS ソフトウェアの基礎を学ぶことが必要であると考えからである。</p>
人員の監督	<p>GIS データアナリストは通常、監督責任を負うことはない。しかし、特定のプロジェクトにおいて GIS 技師やプログラマーを監督することもある。</p>
他者とのかわりにおける性質	<p>GIS データアナリストは、プログラマー及びユーザーに接する機会が多い。よって、GIS データアナリストは文書通信や対話における良好な交流をもつ技術が必要である。文書によるやりとりは重要である。なぜなら GIS データアナリストはしばしば空間解析またはそれ以外に関係する報告書の作成を求められるからである。また、技術的な支援や指導が責務であることから、対話能力も十分に重要である。</p>

## 6. GIS プログラマー

肩書き	GIS プログラマー
<p>GIS データアナリストやプログラマーは、情報技術の優れた背景が要求される役職であり、また、継続的な再教育が必要となる。GIS ソフトウェアアプリケーションの設計や構築、修正、管理を行い、現在あるアプリケーションのメンテナンスや新しいアプリケーションの構築に従事する。GIS データアナリストやプログラマーは、データのマッピングやサポート、空間データベースやその他のデータベースの開発、あるいは他の GIS スペシャリストの技術支援等に招集される。GIS データアナリストやプログラマーは、プログラミング言語や GIS ソフトウェア、あるいはデータベース管理システム等に特有の知識をもつことを期待され、また特に GIS プログラマーは、GIS ソフトウェアアプリケーションに対する幅広い知識をもつことが要求される。また、資質があり、成功する GIS データアナリストやプログラマーは、既存の GIS を改良する能力をもっていなければならない。</p>	
必要となる背景	
教育	<p>多くの GIS データアナリストやプログラマーは、コンピューターサイエンスや情報管理システムあるいは関連する分野において学位を取得している。高等学校や専門学校等の教育は、通常十分とは見なされない。多くの GIS データアナリストやプログラマーは、地理学や GIS、コンピューターサイエンスなどの単位を取得し、また、工学や計画・設計、地球工学、数学等の単位を取得する。修士号の取得も望まれるが、必須ではない。</p>
技術	<p>GIS やアプリケーションについての技術はここ数年非常に成長してきていることから、プログラム作成やアプリケーションを動かす能力も未だ高い専門技術とされる。過去 10 年の間、GIS ソフトウェアに関する実用的な知識は、GIS に関する様々な職種（GIS マネージャーから専門家、テクニカルユーザーにいたるまで）にとって必要となってきた。GIS に関する知識が必要なのは、GIS プログラマーにとどまらない。しかしながら、GIS ソフトウェアは、今や開発ツールや他のソフトウェアとの連携も含むところまで発展している。これらのアプリケーションは、新しいプログラムやソフトウェアが開発されたことによるものであり、GIS データアナリストやプログラマーの成果なのである。</p> <p>そのため、GIS データアナリストやプログラマーの役割は、GIS ソフトウェアの一般的なユーザーから、特殊なユーザーを満足させるためにアプリケーションを作ったり改良したりする役割へと変化しつつある。GIS ソフトウェアに関する基本的な知識は、今日の GIS 市場では当たり前のことになってきているが、プログラミング言語や強力なデータベース管理能力は、経験を積んだデータアナリストやプログラマーに残された専門領域である。</p> <p>構築や改良に GIS データアナリストやプログラマーは、非常に多くの時間を費すが、ソフトウェアやハードウェアに発生する問題の解決も、重要な責務の一</p>

	つである。
コンピューター技術	GIS データアナリストやプログラマーは、様々なベンダーのソフトウェアプログラムに精通していなければならない。一般的に、データアナリストやプログラマーは GIS ソフトウェアが操作でき、またデータベースの統合、データの蓄積、計算、地図の作成が行え、システムのトラブルシューティングのためのプログラム言語が使えるなければならない。
関連する実務経験	この役職はかなりの技術的な背景や経験が求められる。多くの GIS データアナリストやプログラマーは 2 年から 5 年、平均 3.5 年の経験をもつべきである。多くの雇用者はコンピューターアプリケーションの知識が必須であると考えますが、プログラミング言語を習得する場は提供しないことが多い。プログラミングの訓練はまず学校で習得すべきであり、そして民間の講習会やあるいは仕事上で学ぶと考えられている。
人員の監督	GIS データアナリストやプログラマーは多くの場合個人で仕事を行うため、人員を監督・管理する能力は求められない場合が多い。ただし、上級のデータアナリストやプログラマーは、非常に大きなプロジェクトでは GIS データアナリストや技師あるいはより経験の少ないデータアナリストやプログラマーの監督を行う場合もある。
他者とのかかわりにおける性質	GIS データアナリストやプログラマーのコミュニケーションのレベルは最小であることが多い。彼らはコンピューターの概念や用語などについての知識が求められるが、仕事の多くは個人で行うからである。

## 7. GIS 技師

肩書き	GIS 技師
GIS 技師は、多くの GIS 部局において、新入社員向けの役職である。この種の役職には、手順が決まった仕事、例えばデータベースへの大量入力や地図作成などが与えられる。	
必要となる背景	
教育	GIS 技師は、4 年制の大学や、専門学校でのソフトウェア実務経験をもつことが多い。
技術	この役職では、GIS や地図に関する技術が求められる。技術以外の必要条件として GIS 技師が持たなければならないのは、ひとりで仕事ができ、常時監督を必要としないことである。技師の仕事の多くは単独で実施し、手順が決まっている。文書作成及び口頭でのコミュニケーション能力は、報告書の作成や GIS に関する知識のない人々との文書でのやり取りをするために必要となる。技師を目指す人はまた、コンピューターについての幅広い知識をもつことが重要である。
コンピューター技術	幅広いコンピューター技術が重要である。また、GIS ソフトウェアに加えて、コンピューターを使った製図やデータベース管理、その他一般的なオフィスアプリケーションに精通しておかなければならない。
関連する実務経験	GIS 技師は、大学あるいは専門学校での経験が求められることがある。
人員の監督	GIS に関する役職の初心者レベルであるため、一般の GIS 技師が人員を監督することはない。
他者とのかわりにおける性質	GIS 技師は詳細な注意をもって独立的に仕事を行うことが求められる。GIS の背景や一般の人々との文書のやり取りや報告書作成についてユーザーを支援するために、文書や口頭でのコミュニケーションをとることが求められるかもしれない。

## 8. GIS ユーザー

---

### GIS ユーザー（通常程度）

GIS ユーザーは、仕事の中で GIS ソフトウェアや GIS 技術を利用する人のことである。GIS ユーザーは、マネージャーやアナリスト、プログラマーといった GIS の専門技術者ではない。GIS を使うのは、日に 1 回、あるいは週や月に 1 回程度である。通常の GIS ユーザーは、GIS ソフトウェアを 2, 3 週間あるいは 2, 3 ヶ月に 1 度使うのみである。GIS ユーザーには、組織において、計画や工業技術、公共事業まで様々な役職あるいは背景の人々がなりうる。行政職員や公共機関の部局長もなりうる。彼らは、GIS を使うことができるが、システムに関する知識は限られている。通常の GIS ユーザーは、限られた訓練や実務を通して技術を獲得する。

### GIS ユーザー（ヘビーユーザー）

GIS のヘビーユーザーは、技術的に GIS や関連する部局に所属していなくても、ソフトウェアやアプリケーションを頻繁に使う。GIS ヘビーユーザーは、様々なプロジェクトの中で 1 日に 1 回程度は GIS を使う。計画や工業技術、アセスメント、公共事業など様々な背景をもつ。ヘビーユーザーは GIS を使いこなし、ショートカットやコマンド、特殊なアプリケーションについての包括的な知識をもつ。ヘビーユーザーは、高度なトレーニングと反復的な使用により、技術を獲得する。

## 9. GIS オーガナイザー

---

肩書き	GIS オーガナイザー
<p>GIS オーガナイザーは、GIS プロジェクトの企画、運営及び管理を行う。</p> <p>ここでいう GIS プロジェクトとは、主に行政機関や公益企業における GIS 開発、導入、及び運用を指す。複数の機関、企業、研究機関がプロジェクトの遂行に協力することが多い。</p> <p>この役職は、開発段階においてはアナリスト、プログラマー、マネージャーなど、GIS プロジェクトに関わる人々を統括する。運用段階においては GIS 運用のまとめ役となる。GIS オーガナイザーには、GIS 開発及び運用に関する広範囲にわたる能力が求められる。</p>	

## 10. GIS リサーチャー

---

肩書き	GIS リサーチャー
<p>GIS リサーチャーは、GIS のアーキテクチャー、基礎理論、応用に関する研究及び GIS の教育を行う。</p> <p>GIS リサーチャーは、研究機関や教育機関、企業における研究部門に所属し、研究及び教育を専門的に行うことが多い。</p>	

## 参考文献

GIS 専門技術者が国際的な水準にあることの裏付けになることを意図し、この「GIS専門技術者の職務一覧」は、URISA が出版する「Model Job Descriptions for GIS Professionals」(著者 William Huxhold, Ph.D., GISP)を、日本の実情を考慮し、可能な限り翻訳したものです。

なお、「9. GIS オーガナイザー」及び「10. GIS リサーチャー」は日本の実情を鑑み、日本独自に追加した職務となります。

## GIS 上級技術者認定におけるポイントとの対応

基本となる職務	1年あたりのポイント
空間解析、システム設計、プログラミング、 <b>研究、企画・運営</b> ： データベース設計や管理、要件定義や分析、アプリケーション設計や評価、実装の管理、システム管理。 <b>GIS のアーキテクチャー、基礎理論、応用に関する研究及び GIS の教育。GIS プロジェクトの企画・運営。</b> 「GIS 専門技術者の職務一覧」の「GIS データアナリスト」及び「GIS プログラマー」、「GIS スペシャリスト」 <b>「GIS リサーチャー」「GIS オーガナイザー」</b> 参照。	25 ポイント
データ編集(作成、更新)及び教育： データ作成や地図作成、報告書作成、データベース維持、データ検証。「GIS 専門技術者の職務一覧」の「GIS 技師」参照 <b>教育：GIS アーキテクチャー、基礎理論、応用に関する GIS の教育。</b>	15 ポイント
GIS ユーザー： GIS アプリケーションの利用。GIS を使うが実装には関与しない。「GIS 専門技術者の職務一覧」の「GIS コンサルタント」及び「GIS マネージャー」参照	10 ポイント
追加点	
プロジェクト管理の責務や組織間あるいは管轄間における GIS 活動調整などの標準的な職務。「GIS 専門技術者の職務一覧」の「GIS 担当役員」「GIS コンサルタント」及び「GIS マネージャー」 <b>「GIS オーガナイザー」</b> 参照	10 ポイント

\*赤字は日本の実情を鑑み、日本独自に追加・修正を行った箇所です。